

1枚でまとめる家族憲章

家族憲章（ファミリー・コンスティテューションとも呼ばれます）は、一族と事業との関わり方を定めた書面による合意です。皆の関係が良好なうちが、最も書きやすい時期です。以下の問いは、家族で落ち着いて話し合うための出発点です。答えは1枚の紙に収まります。

01 目的と価値観

なぜ私たちはこの事業を共に所有しているのか。この事業は何を大切にし、何を決してしないのか。

02 所有

誰が株式を持つことができるのか。所有者が株式の売却を望んだとき、結婚、離婚、あるいは亡くなったときはどうするのか。

03 事業で働くこと

一族のメンバーが入社する前に、どのような資格や経験が必要か。ほかの社員と同じ規則や給与体系を適用するのか。

04 意思決定とガバナンス

どの判断を所有者が行い、どの判断を経営陣に委ねるのか。独立したメンバーを1〜2名迎えたアドバイザリーボードは役に立つか。一族は事業について、どのくらいの頻度で話し合うのか。

05 経営と事業承継

次の経営者を、どのように、何を基準に選ぶのか。スケジュールはどうか、候補者をどのように育成するのか。

06 お金

利益をどのように分配し、あるいは再投資するのか。一族のメンバーは会社からお金を借りることができるのか。できる場合、どのような条件か。

07 意見の相違

意見の相違を、どのように話し合い、解決するのか。必要なとき、誰が仲裁役を務められるか。

08 見直し

この憲章をいつ見直すか。2〜3年ごとに見直すのが一般的です。

家族憲章は意思を表明するものであり、通常は法的拘束力を持ちません。株式の譲渡などの事項は、資格を持つ弁護士の助言を得て、株主間契約や会社の定款にも定めておくことをお勧めします。本ガイドは一般的な助言にとどまります。ファミリービジネスは一つひとつ異なります。ここに示したのは指針にすぎません。多くの点は慎重な検討を要し、1枚の紙ですべてを一般化することはできません。お手伝いが必要な際は、どうぞお気軽にご連絡ください。